

事業計画書

現在の地域課題に対する本事業での実施内容	先が見通せない時代にあつて、子どもの主体性を尊重する「こどもまんなか」の教育を実践する小中学校が注目を集めている。長野県でも伊那小学校のような実践の歴史があり、各地域の公立学校でもそうした実践が芽吹きつつある。そのような学校の取り組みや考え方を学んだり、子どもに携わっている関係者が語り合ったりできる場として、講演会や映画上映会、座談会・勉強会などを開くとともに、そうした場の積み重ねが苦しさを抱える保護者らの居場所にもなるような活動を行う。
対象となる人・範囲	子どもや保護者、先生など子育て・教育に関わる全ての人
事業の効果、達成目標 （達成目標はできる限り数値で示すこと）	▼映画や講演会の内容や、座談会の「スピーカー」（話題提供者）の投げかけを元に、今の時代に求められている教育や子育てのあり方について考えるきっかけ作りを行う。 ▼2年間の活動を通して繰り返し参加する人も増えており、同じような悩み、問題意識を抱える保護者の交流や、専門家・先輩保護者からアドバイスをもらうことで、参加者の不安や悩みを解消、軽減する「居場所」としていく。 ▼学校教職員、保育士など子どもと関わっている参加者が多く、保護者も交えて互いに子どものためのより良い環境作りに向けて協力し合う意識の醸成につなげる。 ▼達成目標（目標動員数）：上映会2回（160人）、講演会2回（計80人）、座談会・学習会8回（計120人）・・・総動員目標：約360人
記載ポイント 事業の	▼映画上映会2回。「夢みる小学校完結編」。もう1回は検討中（子育て・教育にかかわる作品） ▼講演会2回。（講師、内容は未定。子育て・教育関係者を予定） ▼定例座談会・勉強会。基本的に2か月に1回、上映会、講演会のない月に開催。15人程度までの小規模で気軽に対話ができる場を目指す。 ▼2023年度開設のホームページで情報発信やイベント参加者との意見交換、情報共有などを行う。 ▼PTA役員、不登校支援、特別支援教育、児童館、コミュニティスクールなど様々な立場で子どもに携わっているメンバーがおり、この会の活動で得たことをそれぞれの現場での実践や周知につなげ、足元から一歩ずつ変えていく具体的な動きにつなげられる。【＝公益性】 ▼毎回、映画上映、講演などとワンセットで、参加者が感じたことを互いに共有する時間を設けており、そこでのやり取りが新たな気づきを与えてくれる時間になっている。高校生の参加者から鋭い感想が語られて刺激を受けたり、講演の内容に関連して悩みを吐露した参加者の発言をきっかけにそこにいた全員でそのことについて対話が始めるなど、単なる講演会、上映会に留まらない深い学びの場になっている。【＝発想・創意工夫性】 ▼これまでの活動で何度も参加してくれる方が増えており、会の趣旨に賛同してコアメンバーに加わってくれた人もいる。毎回のアンケートでも満足度は高く、今後の具体的な活動のアイデアもいただいている。交流の輪をさらに広げていけると考えている。【＝発展性】 ▼昨年度も映画上映会、講演会、座談会を月1回ペースで実施した。試行錯誤の末、集客につながる方法、つながらない方法なども学んできた。新年度からは、回数以上に「内容」に目を向け、座談会を月1回から2月に1回とすることで、より中身の濃い企画を目指していく。【＝実現性】 ▼これまでの支援金のおかげで、初年度のホームページ開設や団体リーフレット作成などの初期経費を賄うことができた。昨年度からはイベント開催を中心に取り組み、共感の輪も広がっている。さらに良い集客や運営のあり方を模索しながら、企画面でも収益面でも自立して継続的に活動できる団体を目指す。【＝自立性】
重点テーマに該当する理由	▼重点テーマ2「子どもや保護者の居場所をつくる取組」 さまざまな形の「場」を継続的に設けることで、参加者相互の関係性が深まり、「居場所」としての機能も充実したものになっていく。意見交換の中で悩みを打ち明ける保護者がおり、それをきっかけにその場の全員で対話が始まるなど、徐々に築いてきた関係性を踏まえたやりとりも生まれている。引き続き、さまざまな人が安心して集える場を目指していく。
翌年度以降の取組	▼イベントごとにアンケートをとり「求められていること」を踏まえた企画立案に努めていく。 ▼支援金なしでも団体として自走できる方法を引き続き探り、翌年度以降につなげていく。 ▼子育てや教育に関心のある参加者との交流の輪を広げ、「こどもまんなか」の教育をみんなで作る、そうした取り組みを地域住民として育てていくための土壌を作る。